



破卵追跡システム「クラックス」を
インライン農場で使用している様子

破卵追跡システムの 「クラックス」発売へ

東洋システムが5月から

破卵率の増減は、採卵農場の採卵性に大きな影響を与えるが、東洋システム(株)(安田勝彦社長)本社・岐阜県各務原市金属団地九七(四)は、破卵率低下に役立てる破卵追跡システム「クラックス」を、カナダのベンチャー企業、センサーワイヤレス社と提携し、五月から発売する。

破卵率の増減は、採卵農場の採卵性に大きな影響を与えるが、東洋システム(株)(安田勝彦社長)本社・岐阜県各務原市金属団地九七(四)は、破卵率低下に役立てる破卵追跡システム「クラックス」を、カナダのベンチャー企業、センサーワイヤレス社と提携し、五月から発売する。

センサーエッグが受けた衝撃を重力gで数値的かつ連続的にデータ収集し、これをパソコンコンピュータが受信して、表示すると同時に記憶する(国際特許申請中)。

記憶したデータをパソコンに接続、分析ソフトを使用して、破卵発生の可能性のある箇所を重力gで具体的な数値として表示する。表示された箇所をセンサー卵を使い、衝撃が最低になるように対策を打っていく。

この「クラックス」を農場やGPセンサー、配送用トラックに定期的

に使用することによって、産卵から消費者に届くまでの破卵発生を、最低レベルに保つことができる。

米国とカナダでは、すでに今年一月から発売しているが、日本向けにはセンサーエッグの重量を六四g(米国・カナダ向けは五八g)にすることや、ソフトの日本語への改良を行なうため、今年五月からの発売を予定している。価格は米国やカナダと同一価格とし、米ドルで八千九百九十五ドルを予定している。